



### タツ年明ける

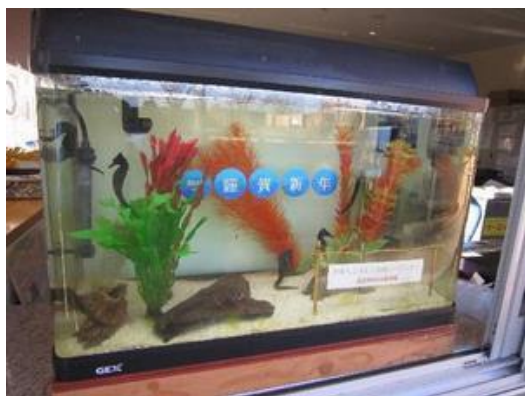
歴史上、決して忘れることのできない平成23年がやっと明けました。津波や原発の影響で、住み慣れた故郷に帰れないでいる人たちにとってはまだまだ「おめでとう」という雰囲気ではないかもしれませんが、兎にも角にも平成24年の幕開けです。本年もよろしくお願いいたします。



かみねっちょもおめでとう

動物園では、平成24年の干支にあわせてタツを入れようと思いましたが入手が難しそうなので、タツノオトシゴを展示しています。

タツノオトシゴは、私も不勉強だったのですが立派な魚です。硬骨魚類（これは魚類の中では一番大きなグループで9割以上がこの種類です。これに対する軟骨魚類はサメやエイなどのグループです）ヨウジウオ科に分類されます。タツノオトシゴには約30種類の仲間がいますが、かみねに展示しているのはオオウミウマという種類で、このグループでは比較的大型のものです。業者から購入したのですが、この時期（というか、この干支の時期）需要が多く、ある程度注文を受けてから日本近海からフィリピン海あたりにかけて獲りに行くそうです。しかし、私たちも飼育員を含めこの手のものはあまり経験がないので、飼い方などをアクアワールド大洗水族館さんから聞きました。



公開中



立ち泳ぎが得意

一番大変なのはエサだそうで、大洗さんでは汽水にいるイサザアミを与えているそうです。ただ、死んだ餌は食べないので、これを生かしながらかうが必要になってくるこのこ

と。場合によっては冷凍アミも食べないことはないそうですが、うちでやってみたところ、やはりだめでした。そこで取り寄せたイサザアミを（水槽の関係で）まずは半分に分け、一方を人工の汽水環境にしました。一応、海水との割合を調べ比重計ではかりながら調合したのですが…3日後ぐらいにはほとんどが死んでしまいました。やはり付け焼刃はだめです。仕方ないのでもとの汽水環境で飼ってるイサザアミを与えることに。



生き餌イサザアミの飼育 とても小さくて見えない

入荷してから3週間ぐらい経ちますが、生き餌の食い付きも良く（スポットの先のような吻でヒュッとアミを吸い込みます）今のところタツノオトシゴたちに異常は見られません。海水も半分くらいずつを時々取り替えています。そのほか、ろ過や温度管理などにも気をつけながら何とか新年を迎え、多くのお客様に喜んでもらっています。タツノオトシゴは、その泳ぎ方や独特の風体もさることながら、メスがオスの育児のうという袋に産卵し、袋の中で受精後、孵化するまでオスが袋の中で卵を守る、という一風変わった繁殖方法をとります。なかなか「男はつらいよ」のそんな変わったタツちゃんたち、ぜひ見にいらしてください。



動物園入ってすぐ左だよ



見に来てね

こちらのサイトもどうぞ（連載中）：[どうぶつのに](#)（新しいウインドウが開きます）

（平成24年1月5日）

2012年1月5日